

平成27年度
 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
 (研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT27144

**和漢薬ってこんなに身近にあったんだ！
 ～歴史と最先端科学が語る薬草の底力～**



開催日：平成27年8月7日(金)、8月8日(土)
 実施機関：富山大学
 (実施場所) 和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館
 実施代表者：伏見 裕利
 (所属・職名) (和漢医薬学総合研究所・特命准教授)
 受講生：中学生 22名、高校生 7名
 関連URL：http://shiryokanhp.inm.u-toyama.ac.jp/mmmw/addition/add_note.html

【実施内容】

【工夫した点】

初対面の受講生がほとんどであるため、オリエンテーションの時点で、緊張をほぐすためのアイスブレイクになるような自己紹介を入れた。

和漢薬を身近に感じてもらうために、目や耳にした事のある植物や普段の食事の中に使われている食物などを多く取り上げた。また、より記憶に残りやすいプログラムとなるよう、視覚、味覚、嗅覚など、五感をフルに使った体験を多く取り入れた。

漢方薬に配合される生薬の鑑定体験では、スタッフが受講生2～3人につき一人張り付いて、きめ細かく声をかけたため、受講生が質問をしやすい雰囲気を作ることができた。

薬草ブレンドティー作りでは、協力者である学部生を班長として3班に分かれ、班長の解説を頼りに自分たちでおいしいと思う薬草・ハーブを混ぜてオリジナルブレンドを完成させ、班対抗のコンペのように進めた。受講生どうしや、実施者との交流が活発になった。

【当日のスケジュール】

時間	内容(一日目、二日目とも同一内容)
9:30～10:00	受付(民族薬物資料館1F)
10:00～10:30	開講式(あいさつ、日程説明、自己紹介、科研費の説明)
10:30～11:00	①講義「民間薬と世界の民族薬物」
11:10～12:00	②実習「民族薬物資料館展示室見学」
12:00～13:00	昼食休憩(薬膳弁当、ハトムギ茶)
13:00～13:45	③「身近な分子のカタチ」
14:00～14:30	④実習「桂枝湯と葛根湯の選別・鑑定」
14:40～15:40	⑤実習「植物の甘味を比べよう！」(薬草ブレンドティーで)
15:40～16:10	クッキータイム
16:10～16:30	学習の振り返り&発表
16:30～16:50	修了式(アンケート記入、和漢薬博士号授与、あいさつ)
16:50	修了・解散

【実施の様子】



〈門協所長による講話〉

創薬の歴史について解説を聞きました。夏目漱石も薬があればもっと多くの作品を残せたのです。



〈民間薬と世界の民族薬物〉

伝統医学の歴史や、世界の民間薬について用途や成分などのお話を聞きました。



〈民族薬物資料館展示室の見学〉

市場に流通している生薬には様々な品質があることを味や香りで確かめました。



〈薬膳弁当で会食〉

普段の食事に使われている食材の薬味・薬性を知ること、自分に合った食事を心がけます。



〈身近な分子のカタチ〉

植物(トチュウ)に含まれている成分(グッタールカ)を現物と分子模型で確認・比較しました。



〈桂枝湯・葛根湯の選別・鑑定〉

漢方薬に配合されている生薬を自分の目と鼻と舌を使っての選別に挑戦しました。



〈植物の甘味を比べよう！〉

数種類の薬草・ハーブ・甘味のある植物を選んで班別にオリジナルブレンドティーを作りました。



〈学習の振り返り&発表〉

一日を振り返ってそれぞれが感じたこと、印象に残ったことをお互いに発表しました。

【事務局との協力体制】

- ・研究振興部研究振興課が、広報手段の提案、振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正を行った。
- ・医薬系事務部研究協力課が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。また当日の運営にも協力した。
- ・総務部広報課がニュースリリースによって県内の報道機関に情報提供した。また、大学のHPのイベント情報に本事業について掲載した。

【広報活動】

- ・実施者(代表者、分担者)が富山県庁、富山市教育委員会を訪問し、本事業についてPRするとともに、ポスターの掲示を依頼した。
- ・富山県商工労働部商工企画課による「とやま科学技術週間のご案内」に本事業の募集要項を掲載した。
- ・県内15市町村教育委員会に依頼し、県内すべての中学校にポスターとチラシの配布を行った。高等学校には直接郵送した。その他、県内の図書館など、公共施設にポスターを郵送し、掲示を依頼した。
- ・学内電子掲示板に本事業の募集案内とポスターを掲載した。
- ・大学附属病院内の掲示版にポスターを掲示し、チラシを配置した。

【安全配慮】

- ・事前に食物アレルギー調査票を記入していただき、受講生の実態を把握し必要に応じて昼食を一部アレンジした。
- ・薬草ブレンドティー作りの実習では受講生を3グループに分けて、それぞれのグループに実施者と協力者を配置し、事故の起こらないように配慮した。
- ・薬草ブレンドティー作りは実施協力者ととも予備実習を行い、器具の取扱いや煎じ方について確認した。
- ・受講生を短期の傷害保険に加入させた。

【今後の発展性、課題】

- ・準備に時間と労力がかかるので、簡略化を試みる必要がある。
- ・特に広報活動に時間と労力がかかるため、改善の余地がある。

【実施分担者】

門脇 真	和漢医薬学総合研究所・教授
芥木 育夫	和漢医薬学総合研究所・教授
柴原 直利	和漢医薬学総合研究所・教授
梅峯 雅人	和漢医薬学総合研究所・特命准教授
林 珠央	和漢医薬学総合研究所・技術補佐員

【実施協力者】 6 名**【事務担当者】**

村田 佳美	研究振興部 研究振興課・事務職員
清水 由美子	医薬系事務部 研究協力課・係長
小川 千都世	医薬系事務部 研究協力課・係長